

# Installation Art Museum

-変化を体験する美術館-

所在地: 東京都渋谷区神宮前6丁目22番  
敷地面積: 3,540㎡ 建築面積: 2,000㎡ 建築率: 57% 延床面積: 2,700㎡  
容積率: 76% 造形別: RC造 階数: 3階 最高高さ: 38m



### 01. コンセプト

変わり続ける渋谷の風景を一部の作品として取り入れた体験型の美術館である。変化するまちの風景と変化する作品の視覚情報から自らの行動に「瞬間」を切り取り、その経過と体験を五感で楽しむことできる。時間をデザインした美術館となる。

Installation(インスタレーション)とは… (見る) (体験する)

- 現代美術における表現方法のひとつ
- 展示作品を「見る」だけでなく「体験」できる
- 場所や状況によって変化していくアート一全ての瞬間がアートになる

### 02. 渋谷エリアの周辺分析

- 再開発
  - 「エンターテインメント(SHIBUYA)」「Greater SHIBUYA(広域渋谷圏)」
  - 渋谷駅から半径2.4km圏内を範囲として駅周辺の建物を重点的に築き上げるため2027年を目標に再開発を行っている。
- 文化の発祥地
  - 「渋谷109」や「渋谷カリエ」など最先端のトレンドを発信する様々な施設が集まっている。
  - 周辺の原宿や表参道にも多くの若者が訪れるエリアが密集している。
- SNS利用者が多く集まる
  - 再開発や文化の発祥地としての渋谷にはSNSを利用する人たちが多く訪れる。SNSに載っているのを見たことがきっかけになったり、SNSで発信することが目的だったりすることから渋谷を訪れる。

常に新しいものや変化を追い求めている → 変化していくことが当たり前になって今を見ていないのではないかと

### 03. 配置計画

建物とスロープの要素から構成。展示ごとに建物とつながっているため、移動の度に外に出てスロープを渡る。

### 04. 立面図

体験型の展示作品のため、作品を見るごとに外に出ることによって一つの作品により集中することができ、楽しみやすくなる。また、建物はたくさんの緑に囲まれている。そのため、変化を楽しむ要素の一つとして緑が四季とともに変化していく姿も作品とともに感じてもらおう。

東側立面図 S=1/500 南側立面図 S=1/500

### 05. 建物ごとのダイアグラム

建物は、展示作品の風景を取り込むという要素を取り入れたものをそれぞれの作品に合わせた形になっている。

(展示室1) 四面い階 → 展示のどの景色も取り込むために傾斜させる → 動線や高さを調整して形成

(エントランス&ミュージアムショップ) 四面い階 → モニタリングシートのつなぎ要素に合わせる → 空の光を建物内部のために上げれば → 動線や高さを調整して形成

(展示室2) 四面い階 → 展示作品の中心の空を覗くための傾斜を上げる → 動線や高さを調整して形成

(展示室3) 四面い階 → 周囲の風景を取り込むために傾斜させる → 動線や高さを調整して形成

(展示室4) 四面い階 → 空の光を取り込むために傾斜させる → 動線や高さを調整して形成

### 07. 平面図

2階平面図 S=1/500 1階平面図 S=1/500

展示室1: 【あなたは、翌日家に会いにそこに戻ってくるでしょう。】  
鏡やプロジェクター、断線などが設置されている中を自由に歩き回る → ビルの風景を取り入れる

展示室2【ザンブランド】  
天井が切り抜かれていて、そこを覗くと全く別の風景が広がっている → 空を取り込む

展示室3【ローラースケート】  
ローラーのついた風景のパーツを自由に動かす → 電車の風景を取り入れる

展示室4【動く絵画】  
展示室の床や壁に広がったスクリーンに動いている名画が映し出される → 絵画に入ったような体験

展示室5: 天井から光が入っている

展示室6: 半階外空間ベース: 展示室3の1階階段を見る

### 08. 断面図

それぞれの景色の取り込み方や用途が異なるため、それぞれの建物の最高高さや階ごとの天井高は異なる。

A-A' 東側断面図 S=1/600 B-B' 南側断面図 S=1/600

### 09. 1/400 屋根起伏図

来館者用の「屋上庭園1」と一般来館者の「屋上庭園2」とがある。景色を楽しむだけ休憩をしたりするのに適した心地良い空間である。

変化する渋谷というまちで、変化する作品を体験したり緑を感じたりすることで、この美術館を出た後のそれぞれの生活の中でも一瞬一瞬を楽しもうと思ってもらえるような美術館となることを望む。

### 06. 配置図

渋谷駅から徒歩5分、原宿駅から徒歩12分程のところに位置している。敷地周囲は明治通りが控えているため人通りが多く開けている。敷地北側は建物に囲まれているため南側より静かになる。西側は線路に面していて真横を電車が通る。そして細長い矢印のような形をしているのがこの敷地の特徴といえる。

(地下バード写真) (電車が通る写真)  
南側に客用パークがあり多くの人が集まるエリアである。敷地西側には道路が隣接していて1階が電車が通る。また、現在の敷地には豊かな緑がある。

0119